

政策コメンテーター報告(第1回)(意見照会期間:2017年4月10日~4月19日): キャシー 松井 ゴールドマン・サックス証券株式会社副会長

質問事項		記述式回答
個人消費の動向		
1	個人消費の動向をどうご覧になっていますか。また、そのような動向となっている要因やメカニズムについて、お考えをご教示ください。	1~2月の実質家計支出は改善しており、2016年下半年期の水準をわずかに上回っている。消費者信頼感は比較的高い水準まで改善しており、総雇用所得は2%を超えるペースで増加している。しかし、消費者のインフレ期待は依然として低く、デフレ感はまだ完全に消えたわけではないことを示唆している。
消費の活性化		
2	消費を活性化するためには、どうしたらよいとお考えでしょうか。	パートタイム雇用者が全労働者の40%近くを占めているため、政府の「同一労働同一賃金」ガイドライン案が正しく導入されることが必須となる。これは、パートタイム雇用者の所得水準の引き上げだけでなく、全体的な景気信頼感の改善という点でも重要な意味を持つ。現在のゼロあるいはマイナス金利環境により「待てば安くなる」という心理が強まり、消費および投資需要が抑制されている。
プレミアムフライデー		
3	効果	概念としては理にかなっているが、企業には、(1)労働時間が減っても生産高が落ち込まないようにするための労働生産性の引き上げ、(2)就業時間/年功に基づくものから生産性/業績に基づくものへの人事評価基準の見直しといった対策が求められる。さもなければ、この新しい制度が個人消費の喚起という本来期待される効果を上げることは難しいだろう。
	早帰りを促すための工夫	
	本取組を消費拡大につなげるための工夫	
	本取組を続けていくための工夫	
	その他	